

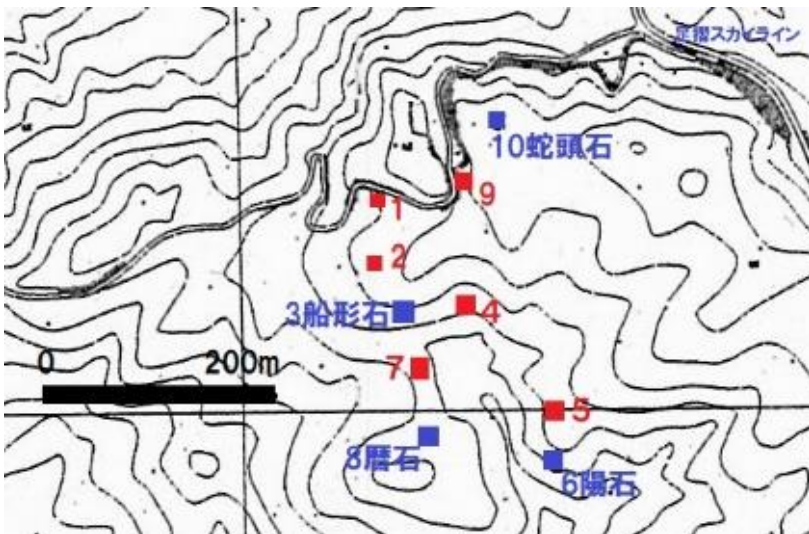
=市史編さん便り= 【2号】 令和5年4月27日(木) 発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

「唐人駄場東側・磐座(いわくら)巡りコース」を設定！

地域の方より、唐人駄場一帯の手つかずの自然を観光資源として活用できないかとのご意見をうかがい、土佐清水ジオの会・富田無事生会長にアドバイスを受けながら、観光課と生涯学習課が協同で唐人駄場東側に点在する「磐座(いわくら)巡りコース」を設定した。

「船形石」→「陽石」→「曆石」→「蛇頭石」(案内看板を設置)



↑ 磐座案内板設置個所(磐座4石)

↑ 2の「船形石」案内板



↑「船形石」



↑ 4の「陽石」案内板



↑ 5の「陽石」案内板

「船形石」は、ギリシャ神話に登場する「アルゴ船」(船大工・アルゴスが建造した巨大船)に類似している。イオールコス of 英雄イアソンがコルキスの黄金の羊の毛皮を求めて募集した50人の勇士と共に冒険に出発した。ヘーラクレース、オルペウスなどギリシャ神話で活躍するたくさんの英雄がこの船に乗り込んだといわれている。



↑ 7の「磨石」の案内板



↑「磨石」



↑「陽石」



↑ 9の「蛇頭石」案内板



↑「陽石」に下る降口にロープを張る

「陽石」は、子孫繁栄の象徴であり、男根石とも呼ばれる。「磨石」は、現在石の周りは樹林で太陽光が入らず、検証することは困難ではあるが、季節による太陽や月の出没に対応した配石ではないかと推測されている。「蛇頭石」は、巨石の突出部が蛇の頭に似ていることから命名された。内部に空洞があり、縄文人が祭祀などに利用していた可能性がある。

4つの磐座が所在する場所は、唐人駄場の東部に位置し、足摺スカイライン近くの影平山という小字である。南部には縄文時代の「山ノ神遺跡」「唐人駄場遺跡」が所在している。これらの遺跡では大分県姫島産の黒曜石製の石鏃が大量に表面採取されている。恐らくは唐人駄場は縄文人の集落があり、周辺で狩猟や祭祀などが行われていたと思われる。

西側に広がる唐人駄場遺跡のストーンサークルや唐人石、東端の白皇山周辺の巨石群とともに「唐人駄場東側の四つの磐座(船形石・陽石・磨石・蛇頭石)」は、貴重な地域の自然遺産である。観光にも活かしていただきたい。なお、今回の巡回コース設定では、環境省などの関係機関の許可・承認を受けていることを申し添えておきたい。